

## 川越城下町の旧地名と建造物

蔵造りの町並みが残る一番街周辺は、江戸時代に川越藩の城下町として栄えた場所です。現在の幸町は、城下町の中心であった十カ町と呼ばれた10の町のうち、南町・鍛冶町という二つの町が元になっています。

南町は、札の辻の南にあったため、この名となりました。ちなみに、札の辻の北は喜多町で、江戸時代には「北町」とも表記されていました。南町は城下町の中でも呉服太物商が栄え、中でも富を築いたのが西村半右衛門です。半右衛門が寛政4年(1792)に建てた大沢家住宅は、国の重要文化財に指定されています。旧南町周辺は、今でも蔵造りの店蔵などが軒を連ねており、往事の繁栄ぶりをうかがうことができます。

鍛冶町は、南町のさらに南側にある現在の鍛冶町公園(仲町)周辺にありました。刀鍛冶やその弟子が多く住んでいたことが地名の由来です。鍛冶の祭神である金山神社や、かつての鍛冶屋が営んできた金物店が今も残ります。他にも、旧山吉デパートや昭和初期の洋風建築を見ることができま



鍛冶町にある石碑  
一番街に示す

南町・鍛冶町ともに、昭和30年代に「幸町」と地名が変更されました。古い地名を温ねることで、新たな川越の魅力を知ることができます。



## エダマメ

「塩をたくさん入れた鍋でエダマメをゆで、すぐに冷水でさらし、ジャリジャリと感じるほど塩を振る。そうすると、きれいな緑色もあせず、甘みも非常に感じられ、おつまみに最高です」と話すのは、エダマメを栽培している町田伊佐雄さん(菅間)。

「おいしいエダマメを作るには、良い苗を作ることが大切です」と町田さん。種を直接まいた方が多くの実がなりますが、うまく成長しないことも多いそうです。安定して出荷するために、手間をかけても苗からの栽培方法にこだわっています。良い苗ができるように、水を与えるタイミン

グ等を試行錯誤しているとのことでした。

6月中旬から7月にかけて旬を迎え、タンパク質やビタミンB1・B2が豊富で、野菜の中でも栄養価の高いエダマメ。町田さんの育てたエダマメは、伊佐沼直売所で購入することができます。ぜひ、味わってみてはいかがでしょうか。



この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜

エダマメ、新ジャガイモ、トウモロコシ、インゲン、ゴボウ、キャベツ、トマト、キュウリ、ナス、コマツナ、新タマネギ、スナップエンドウ

2020年を一緒に踊るイベントなどが催され、東京2020大会に向けて盛り上がりを見せていました。

本格的な雨の季節になり、伊佐沼のハスは開花の時期を迎えます。外出を控えがちになりますが、晴れ間が見えたら足を延ばしてみたいかがでしょうか。



120201を一緒に踊るイベントなどが催され、東京2020大会に向けて盛り上がりを見せていました。

爽やかな陽気の中、5月18日に、川越水上公園で川越ドリームフェスタ2019が開催されました。イベントでは、フラワーアレンジメントや、ARスポーツなど体験型のブース、川越の農産物などの食を楽しめるブースなどが設けられ、行列ができていました。ステージでは、プロダンサーの内山磨我さんと東京五輪音頭

編集後記

どんぶり

広報川越1440

発行日/令和元年6月10日(毎月10日・25日発行)

発行/川越市 〒350-8601埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>  
☎049-224-8811(代表) ☎049-225-2171

編集/広報室

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。

リサイクル適性

Fontworks  
UDFont

「声の広報川越(CD)」 「点字広報川越」を作成しています。ご希望の方は、広報室までご相談ください。  
☎224-5495 ☎225-2171